

ラファウ・ブレハッチ

ピアノ・リサイタル RAFAŁ BLECHACZ

PIANO RECITAL

J.S.バッハ
4つのデュエット

ベートーヴェン
ロンドト長調 op.51-2
ピアノ・ソナタ 第3番 ハ長調 op.2-3

ショパン
夜想曲 第14番 嬰へ短調 op.48-2
ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 op.35 「葬送」
幻想曲 へ短調 op.49

2017 **10/9** (月・祝) 1:30pm

日本特殊陶業市民会館フォレストホール

S ¥8,500 A ¥7,500 B ¥6,500 C ¥5,500 学生 ¥2,000 (税込)

学生券 ご希望の方は中京テレビ事業ホームページよりエントリーしてください。
公演1か月前に抽選の上、お席をお取りできるか否か登録メールアドレスへご連絡いたします。
エントリー開始は一般発売日以降となります。

※プログラム、出演者等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
※未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断りいたします。

主催:  CHUKYO TV 企画・運営: 中京テレビ事業

お問合せ
お申込み **中京テレビ事業 ☎052-588-4477**
(月~金 10:00~17:00 / 土・日・祝日休業)

<http://cte.jp/> **中京テレビ事業**  **5/27(土) 一般発売**
10:00~
座席表からお席をお選びいただけます!

チケット販売所

中京テレビ事業チケットセンター	052-320-9933
チケットぴあ(Pコード 326-971)	0570-02-9999
ローソンチケット(Lコード 42236)	0570-084-004
愛知芸術文化センターPG	052-972-0430
栄プレチケ92	052-953-0777
e+(イープラス)	eplus.jp
名鉄ホールチケットセンター	052-561-7755
セブン-イレブン、サークルK、サンクス、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート店頭	

オルガンの響きをまとうバッハ、ロマンの薫り豊かなベートーヴェン、作曲家の生きた時代を描き出すショパンで、ブレハッチの成熟した美しきピアノリズムを堪能する

一度そのアーティストの演奏を聴くと、心の奥深く浸透してくる音楽に魅了され、もう一度聴きたい、もっと聴きたい、ずっと聴き続けたという気持ちが湧いてくることもある。ただし、その感情は非常に稀である。

ラファウ・ブレハッチのピアノを初めて聴いた2005年のショパン国際ピアノ・コンクールのときから、私はずっとこの気持ちにとらわれている。彼のショパンは作曲家の魂に肉薄する完璧なる美の表現で、リズム、フレーズ、アーティキュレーション、ルバートなどすべてが「自然さ」に彩られていた。なんとこの純粋さ—あるべき音がそこにあり、シンプルで素朴で温かい。事実、審査員のほとんどが「ブレハッチの演奏をもう一度聴きたい」と口をそろえ、感動の涙で頬を濡らした。

コンクール後は自身の演奏をより磨くことに徹し、レパートリーも厳選し、来日するたびに進化と深化を示している。現在はいずれの作品も楽しそうに躍動感とかるやかさをもって奏で、聴き手に愉悅のときを与えてくれる。

そんなブレハッチが、子どものころから愛奏しているJ.S.バッハを冒頭に組み、「生きる意味を問いかける」と話すベートーヴェンの作品に続け、さらにショパンで成熟した演奏を奏でるといふこだわりのプログラムを披露する。バッハの「4つのデュエット」は録音も行い、その音楽は冒頭から天空に飛翔していくような軽捷さと深遠さの絶妙のバランスを備えたもので、ブレハッチの特質を存分に描き出している。音色はオルガンの響きにも似て、全身に幸福感をまとうような気分させられる。彼のベートーヴェンは、厳格さと深遠さの奥に豊かなロマンの薫りを秘めた演奏。とりわけソナタの緩徐楽章がえもいわれぬ美しさを放つ。そしてショパンは、「作曲家が生きた時代を表現したい」と語る伝統にのっとったエレガントな奏法。これらを聴き込むほどに一期一会の演奏に深い感銘が胸に押し寄せ、またもや涙腺がゆるむに違いない。

伊熊よし子



© Marco Borggreve

ラファウ・ブレハッチ (ピアノ) *Rafał Blechacz, Piano*

2005年、第15回ショパン国際コンクール優勝。マズルカ賞、ポロネーズ賞、コンツェルト賞、ソナタ賞(クリスチャン・ツィメルマンにより創設)、オーディエンス賞と全てを同時受賞し、同世代で最高のショパン弾きと認められた。それから12年の時を経て、ブレハッチは真に世界的な名声を誇るアーティストの地位を確立している。彼のレパートリーはバッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、リスト、ブラームス、ドビュッシー、シマノフスキと拡大を続け、その中からドイツ・グラモフォンより6枚のアルバムがリリースされた。この間の活動が高く評価され、2014年1月には、「ピアノのノーベル賞」とも称されるギルモア賞(アメリカ)を受賞。

1985年ポーランドのナクウォ・ナデ・ノテシオン生まれ。5歳からピアノを習い始め、ビドゴシチ市のルービンシュタイン音楽学校(ヤチェク・ポランスキ教授)を経て、ナワヴェジスキ音楽大学にてカタリーナ・ボボヴァ＝ズイドロン教授に師事、2007年に卒業。在学中より、第13回ヨハン・セバスチャン・バッハ・ポーランド全国コンクール第1位およびグランプリ(1996年)、第5回A・ルービンシュタイン国際青少年ピアノ・コンクール第2位(2002年、ビドゴシチ)、第5回浜松国際ピアノ・コンクールの1位なしの第2位(2003年)など数々の賞を獲得。



© Marco Borggreve

ショパン・コンクール優勝後は、ウィーン楽友協会、ベルリン・フィルハーモニー、コンセルトヘボウ、サル・プレイエル、ロイヤル・フェスティバル・ホール、ミラノ・スカラ座など世界の名だたるホールで演奏活動を始め、ザルツブルク、ヴェルビエ、ルール・クラヴィエア、ギルモアといった主要音楽祭にも招かれている。デュトワ、ゲルギエフ、ハーディング、P.ヤルヴィ、ルイジ、ナガノ、ネルソンス、プレトニョフ、ヴィット、ジンマンなど世界的な指揮者と共演。

2006年よりドイツ・グラモフォンと専属契約。ポーランド人演奏家として、クリスチャン・ツィメルマンに続く2人目となった。初のCD「ショパン:前奏曲集」でエコー・クラシック賞、ディアパソン・ドール賞を受賞。その後、2010年にはショパン生誕200年を記念してセムコフ指揮ロイヤル・コンセルトヘボウ管と録音したショパンのピアノ協奏曲1番、2番でドイツ・レコード批評家賞を受賞。「ドビュッシー/シマノフスキ」ではエコー・クラシック賞、グラモフォン誌月間ベスト・アルバム、2013年クラシック音楽の最優秀録音としてフレデリック賞(ポーランド)を授与された。2013年の「ショパン:ポロネーズ集」は発売と同時にゴールド・レコードに輝き、再びドイツ批評家賞を獲得。

批評家たちからはこれらの芸術的功績を讃えてキジアナ音楽院国際賞(イタリア)を2010年に贈られる。2014年、4年に1度最も優れたアーティストに贈られるギルモア賞を受賞。2015年、ポーランド共和国大統領メダルであるポーランド復興勲章カヴァレルスキ十字勲章を授与された。

J.S.バッハの作品集が今年2月にリリースされ、話題となっている。